

よせじま
寄島遺跡 (本発掘調査B)

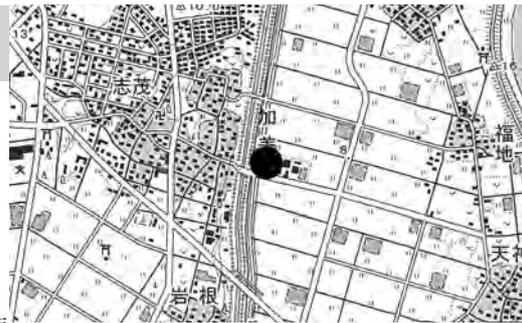
所在地 安城市小川町地内
(北緯34度54分34秒 東経137度05分45秒)

調査理由 中小河川改良工事

調査期間 令和4年5月～令和5年3月

調査面積 1,045㎡

担当者 樋上 昇・永井邦仁・池本正明・田中 良・木村有作



調査地点 (1/2.5万「安城」「西尾」)

調査の経過 調査は愛知県建設局河川課による中小河川改良工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。本遺跡は平成19年度から調査を開始し、今年度で6度目である。今年度は、加美橋の中堤防と左岸の道路部分と水路部分の調査をおこなった。調査区は中堤防を22A区、道路部分と水路部分は南から22B区～22E区を設定し、調査面積は計1,105㎡である。

立地と環境 遺跡は矢作川下流域の鹿乗川左岸の沖積地に立地する。遺跡の西方、鹿乗川右岸の碧海台地上には、前方後円墳の姫小川古墳をはじめとする、古墳時代前期の古墳群が展開する。現在の鹿乗川は、碧海台地東辺を直線的に南流し、川の左岸である遺跡周辺は平坦な沖積地である。中世以前の鹿乗川は沖積地を蛇行して走り、下懸遺跡・惣作遺跡・姫下遺跡で旧河道の一部が確認されている。当該遺跡は、この旧河道の周辺の微高地に展開し、標高は約7mを測る。これまでの調査では、主に古墳時代前期の集落跡と墓域が検出されている。

調査の概要 今年度の調査は、過去に調査区の間を調査する形で、14B区と14C区、07A区の間(22B区)と07A区と12A区の間(22C区)、12A区と12B区の間(22D区)、12B区と13A区の間(22E区)と新規の22A区の調査をおこなった。ここでは主に、22B区の調査成果を記述する。

22B区では、K層(平安～中世の遺物包含層)を掘削したのち、その下層のシルト層上面で遺構検出をおこなった。その結果、弥生時代終末期～古墳時代前期の竪穴建物跡3基と大小の溝群などが検出された。

066SI 066SIは、14C区から続く竪穴建物跡で、平面形は隅丸方形で壁溝を伴い、掘り方は幅広周溝状となる。建物の4分の1が検出され、床面で甕や線刻文土器が出土し、掘り方からは手焙り形土器が出土している。

035SK 035SKは、066SIの上位から掘り込まれた土坑で、炭化物と台付甕など古墳時代前期の土器が多量に出土した。ただし、土器は小片となったものが大半である。

095SD 14C区から続く、方形の区画溝である。溝は掘り返されており、場所によって掘り返し形状が異なる。①浅く(約15cm)皿状の掘り込みに基盤層(灰白色砂質シルト)主体の埋土と②溝中央部を深く(約30cm)掘り込み黒褐色シルトと基盤層ブロックの混合、その上に黒褐色粘質シルトの埋土のものである。いずれの埋土も、古墳時代前期の土器器を含む。

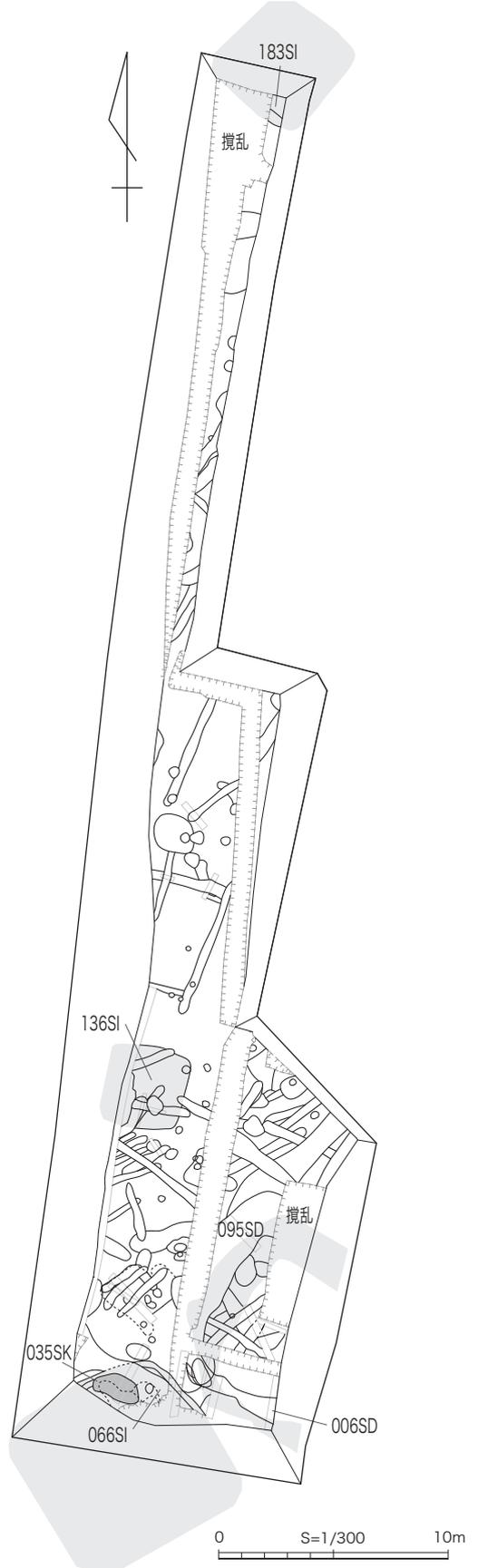
183SI 183SIは、調査区の北東端に位置し、壁周溝(幅約15cm)と床面の一部がわずかに検出された。床面は炭化物が多く含まれているが、遺物がわずかに出土したのみで、時期は不明である。掘り方は床面から10cmほど下がる。(田中 良)



寄島遺跡の調査区配置



22B区 066SI出土の線刻土器



22B区の主要遺構

寄島遺跡 22B区遺構全体図 S=1/300